

ボランティア団体

おはなし企画



町議会

紙芝居や人形を使い、楽しく読み聞かせをしてくれる「おはなし企画」。イベントでは、子どもから高齢の皆さんに大変喜ばれています。今回、結成5周年を迎えて、そんな節目も「進化の過程です（笑）」と語る皆さんにお話を伺いました。

※書面アンケートをインタビュー形式に編集しています。

「いっんなお話やってみたいー!」と思っていいたら参加してください。一緒にやりましょう。

Q 設立のきっかけは何ですか。

— 知人がやっていた「大人のための読み聞かせ」を瑞穂町でもできたらいいなあと思いついて、ボランティアセンターみずほが実施した音訳講座参加者の有志が狭山池のほとりで始めたのが設立のきっかけです。

Q 5周年を迎えて今のお気持ちは。

— メンバーの発案を基に試行錯誤していますが、その時間がとても楽しいです。5周年はまだ進化の過程です。

Q 参加のきっかけを教えてください。

— サポーターのつもりで参加したら、そのままズルズルと…（笑）
— 朗読ボランティア養成講座の参加がきっかけです。

— もともとお芝居や読み聞かせをしていました。「表現することを続けたい」と思っていた時にメンバー募集の記事を見つけて、参加を決めました。
— 公演を聴いたことがきっかけです。朗読に興味があり、定年退職後、地元でボラ

Q 楽しかったエピソードはありますか。

— デイサービスへ読み聞かせに行ったら、サインを求められました。
— 練習前の雑談が楽しくて、気がつくとな練習時間が…（笑）

— 「瞼の母」の役柄で、実際にきせるを持ってセリフを言ったら、大受け。
— 特別に仕立てた自転車を使って、駄菓子



を配って公演した紙芝居。懐かしさがありました。

— 「赤い蠟燭と人魚」の朗読では、みんなで切り絵を手作りして影絵の映像を作成しました。聞いて楽しく見て美しい作品になったと思います。
— 次の出し物の構成を練っているときはワクワクします。

Q 活動で印象に残っていることは何ですか。

— 腹話術人形のくりちゃんを仲間にしたことです。
— 夜、企画の下見で、元狭山神社に行ったら、パトロール中の警官と鉢合わせ。数日前にさい銭泥棒が出たとか。びっくりしました。
— 初めて作品を聴く人が、耳だけで作品の

世界観や魅力を感じ取れるように朗読するのは、とても難しいと実感したこと。

Q 参加して良かったことを教えてください。

— お客様の「とても良かった」の声はうれしいですね。
— 懐かしい絵本から新しい絵本まで、いろいろ楽しめることです。
— いろいろな考え方や本の読み方を知れたことです。
— メンバーがみんな前向きなことですね。

Q PRをどうぞ。

— どこでも行きます！フットワーク軽いです！
— おはなしの世界は豊かで奥が深いことを私たちの朗読から実感していただけると

Q 今後の目標は何ですか。

— コロナ禍の収束後に、町内各地での街頭紙芝居を軌道に乗せたいです。
— いつまでできるかなあ。
— おはなし企画としてケーブルテレビやコミュニティラジオで読み聞かせ番組を持つようになるのうれしいです。
— みんなで楽しめるお話し企画を、自分も楽しみながら考えていきたいですね。

ご協力ありがとうございました。



みんなを笑顔にしてくれる
村上さんとくりちゃん



桜梅桃李で楽しんで話すと話す
嶋田さん



紙芝居の公演が懐かしかったと話す
梅原さん



「いつまでできるかなあ」と語る
五十嵐さん



次回作の構成を練るのが楽しいと語る
久保田さん



デイサービスでサインを求められた
村山さん



いろいろな考え方や本や読み方を知れたと話す
佐野さん